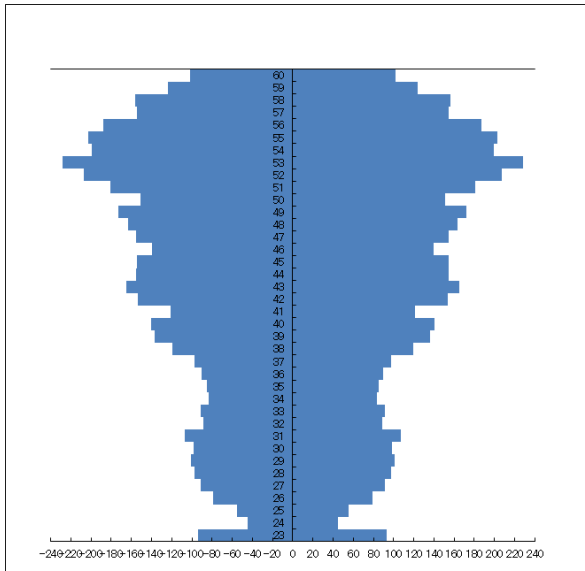


# 大学での学びと教職の関係

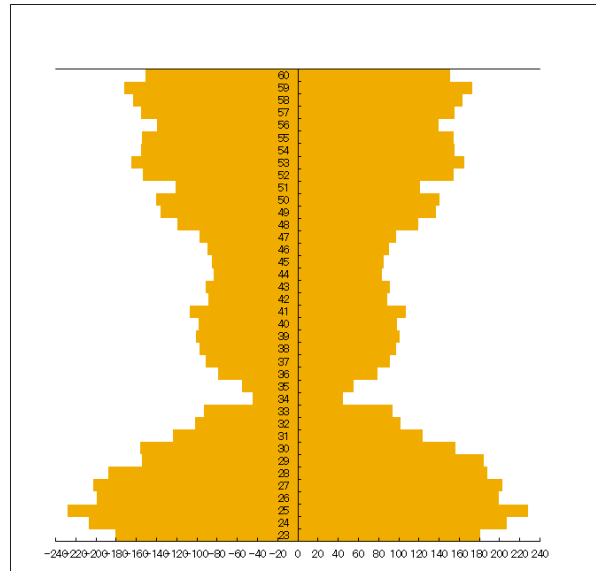
岐阜市教育長  
早川三根夫

## ワイングラスからサンドグラスへ

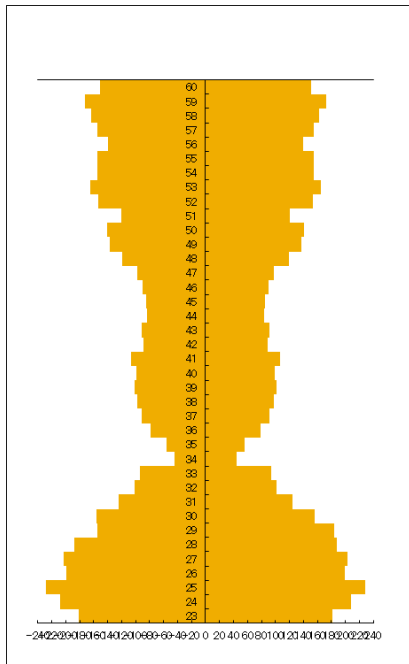
23年度



33年度



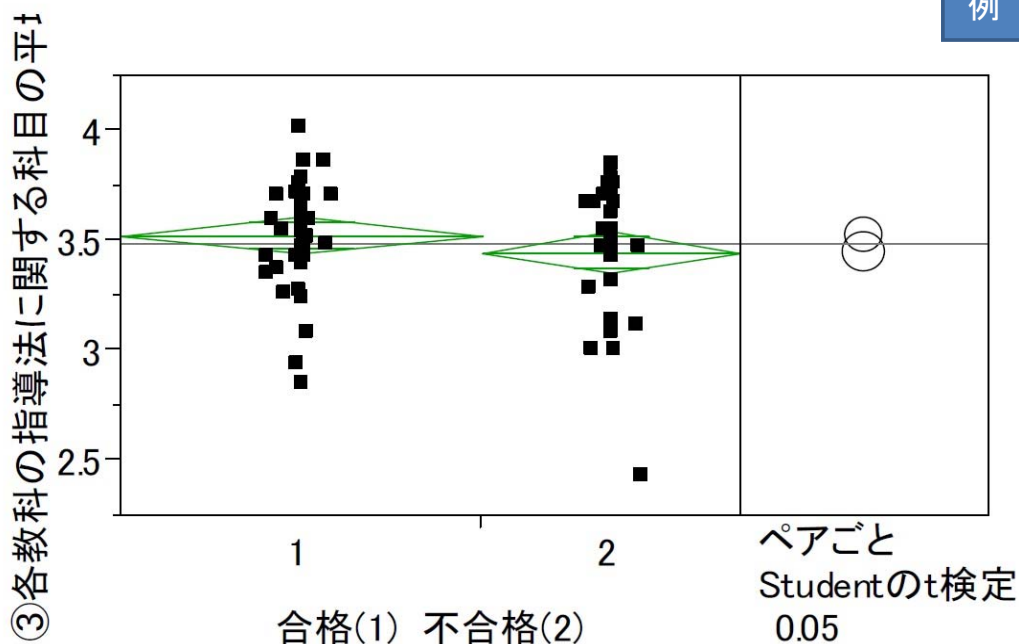
# 組織の欠陥にしないために



- ・ 退職者の活用
- ・ 校長のマネジメント能力
- ・ 主幹教諭
- ・ 教職大学院
- ・ 中途採用
- ・ 免許の高度化、専門化
- ・ 学部+修士
- ・ 大学からの速やかな連結

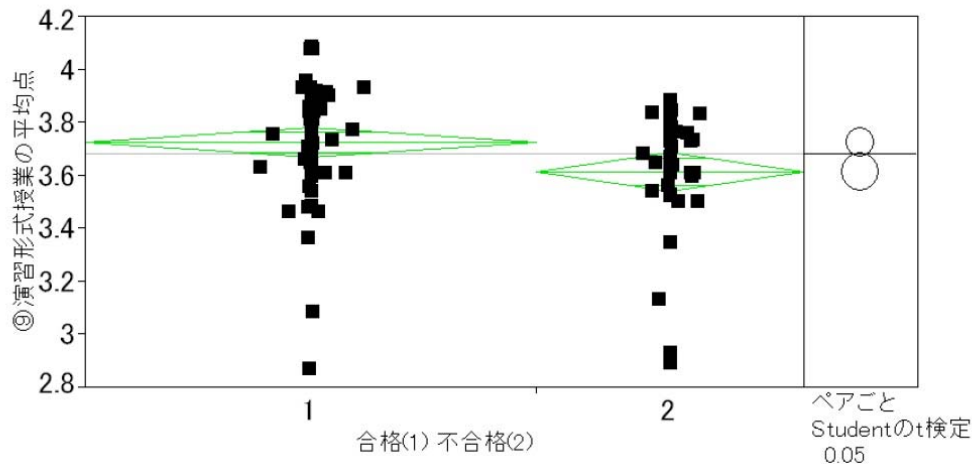
③各教科の指導法に関する科目の平均点には差がない

例



⑨演習形式授業の平均点には差があり、合格者の方が高得点である

例



$t(95)=2.432, p<0.02$  有意差有 効果量( $d$ )=3.63 効果量大

## 大学の学びと採用の関係

### 関係なし

- 選択した授業
- 取得単位数
- 少人数授業か大人数授業か
- 大学入学時のセンター試験の成績
- 高校の内申点
- 留学経験

### 関係あり

- 演習形式の授業の成績
- 教育実習の成績
- サークル活動の関与度
- アルバイトの関与度
- ボランティアの関与度
- 大学主催の採用試験対策講座への関与度
- 教職選択時期

# 初任者356名、6年目208名、指導主事82名

## <初任者> 20代

	小	中	合計
国語	55	19	74
社会	45	10	55
数学	7	34	41
理科	9	19	28
音楽	17	5	22
美術	1	5	6
体育	7	19	26
技・家	9	8	17
英語	41	25	66
小免	21	0	21
合計	212	144	<b>356</b>

## <6年目> 30代

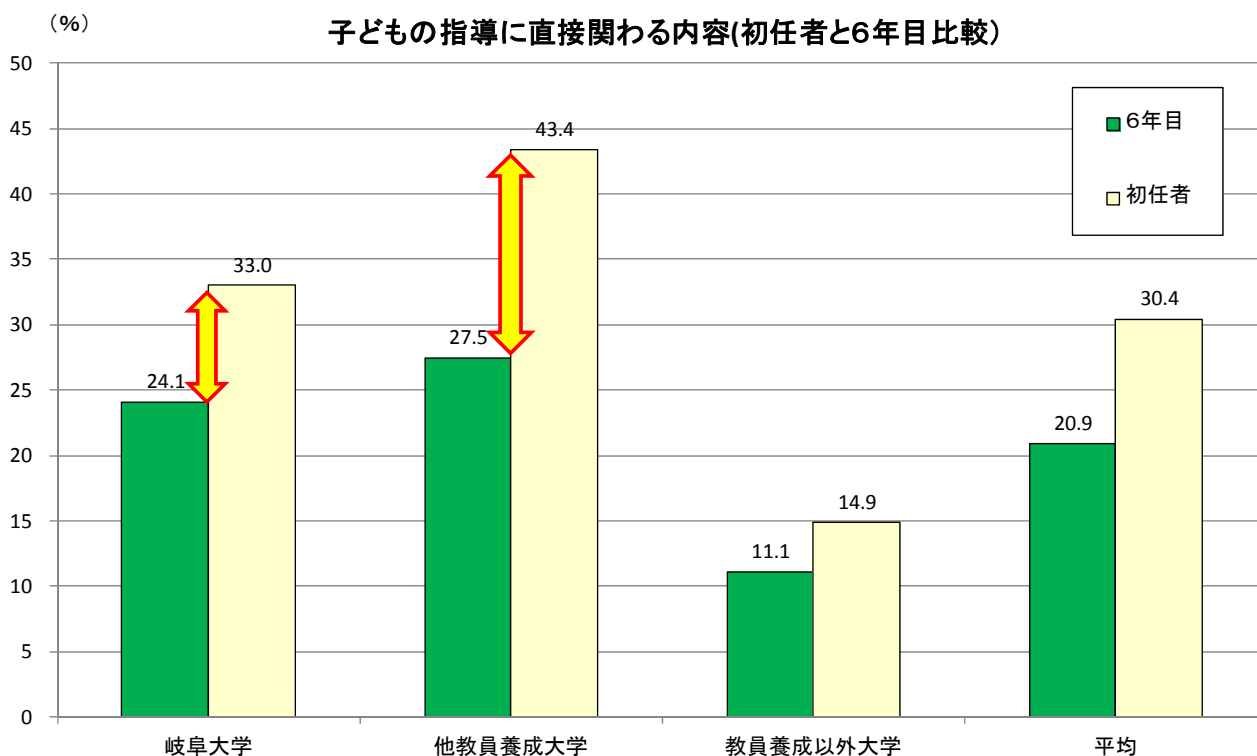
	小	中	合計
国語	23	18	41
社会	24	16	40
数学	21	24	45
理科	6	13	19
音楽	6	6	12
美術	5	2	7
体育	6	3	9
技・家	4	10	14
英語	0	21	21
小免	0	0	0
合計	95	113	<b>208</b>

## <指導主事> 40代

	合計
国語	13
社会	7
数学	16
理科	12
音楽	6
美術	4
体育	11
技・家	6
英語	7
小免	0
合計	<b>82</b>

## 初任者と6年目との比較

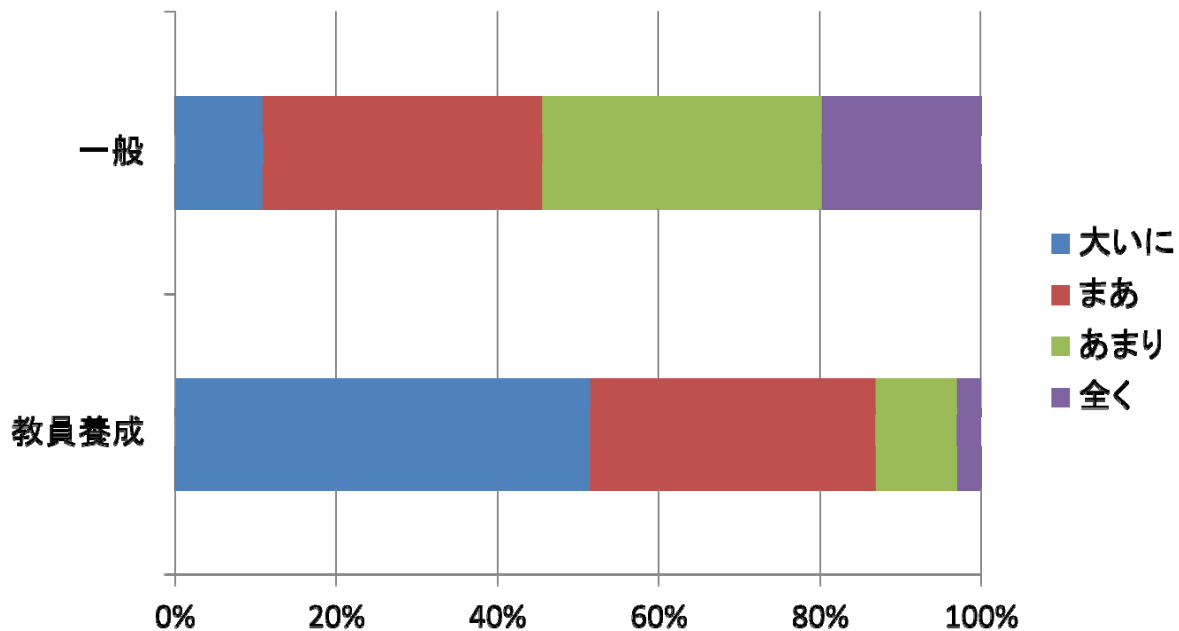
# 合格者の卒論の内容の変化



(平成23年度8月に行われた初任者研修・6年目研修で実施したアンケート結果より)

初任者+6年目

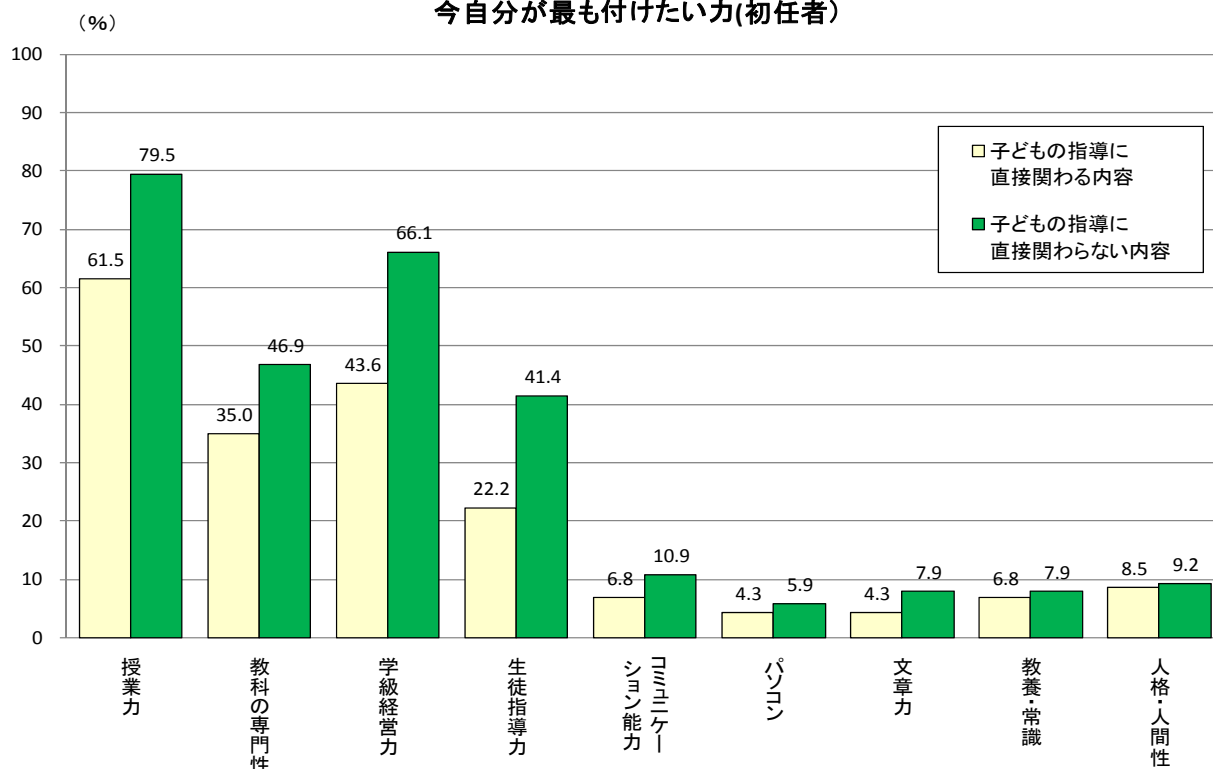
# 一般大学出身のメリットを感じるか 教員養成出身のメリットを感じるか



初任者

## 自分が最もつけたい力

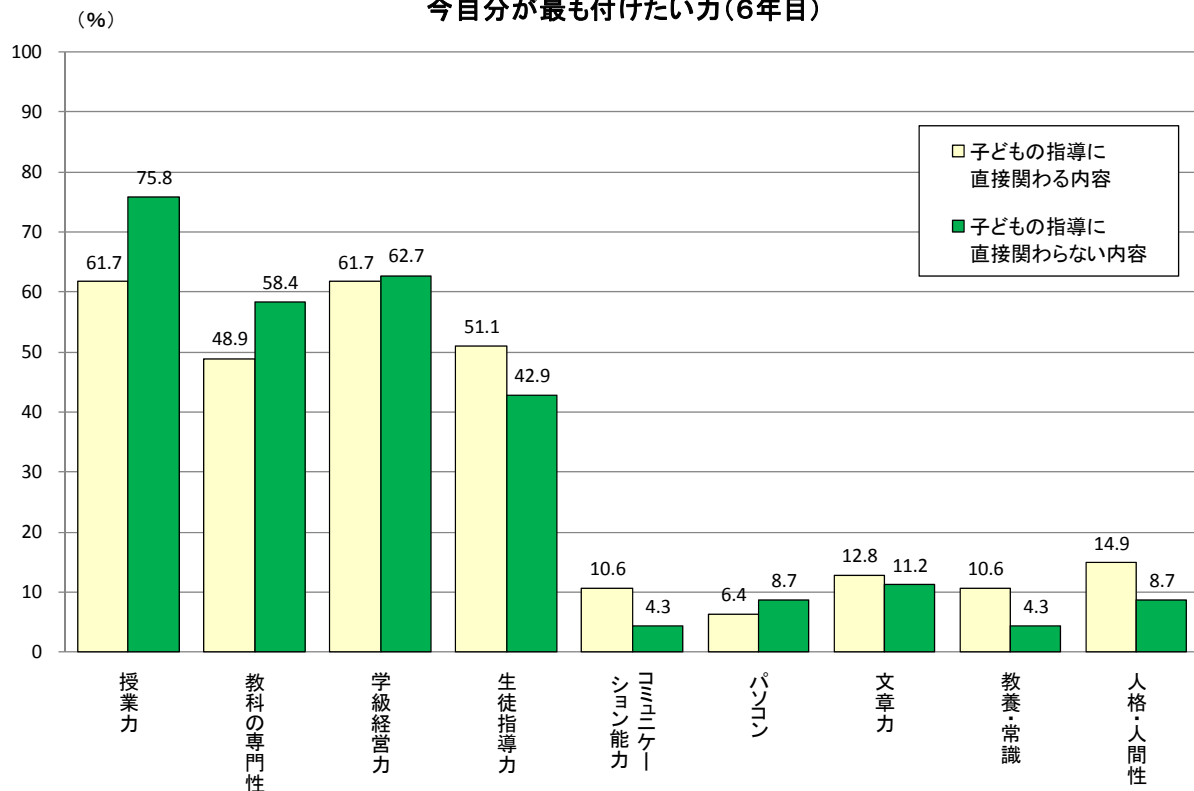
今自分が最もつけたい力(初任者)



# 6年目

# 6年たつと、差は解消

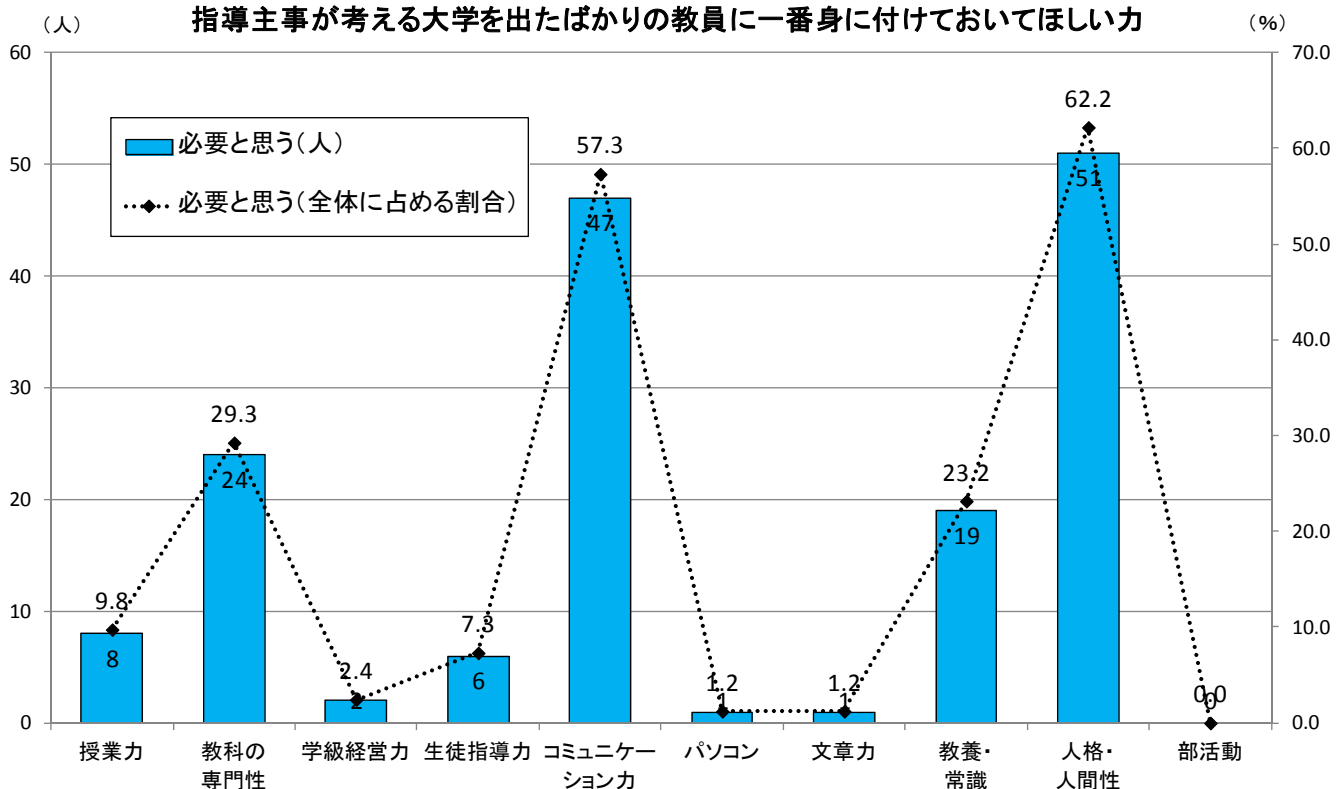
今自分が最も付けたい力(6年目)



## 指導主事の目から

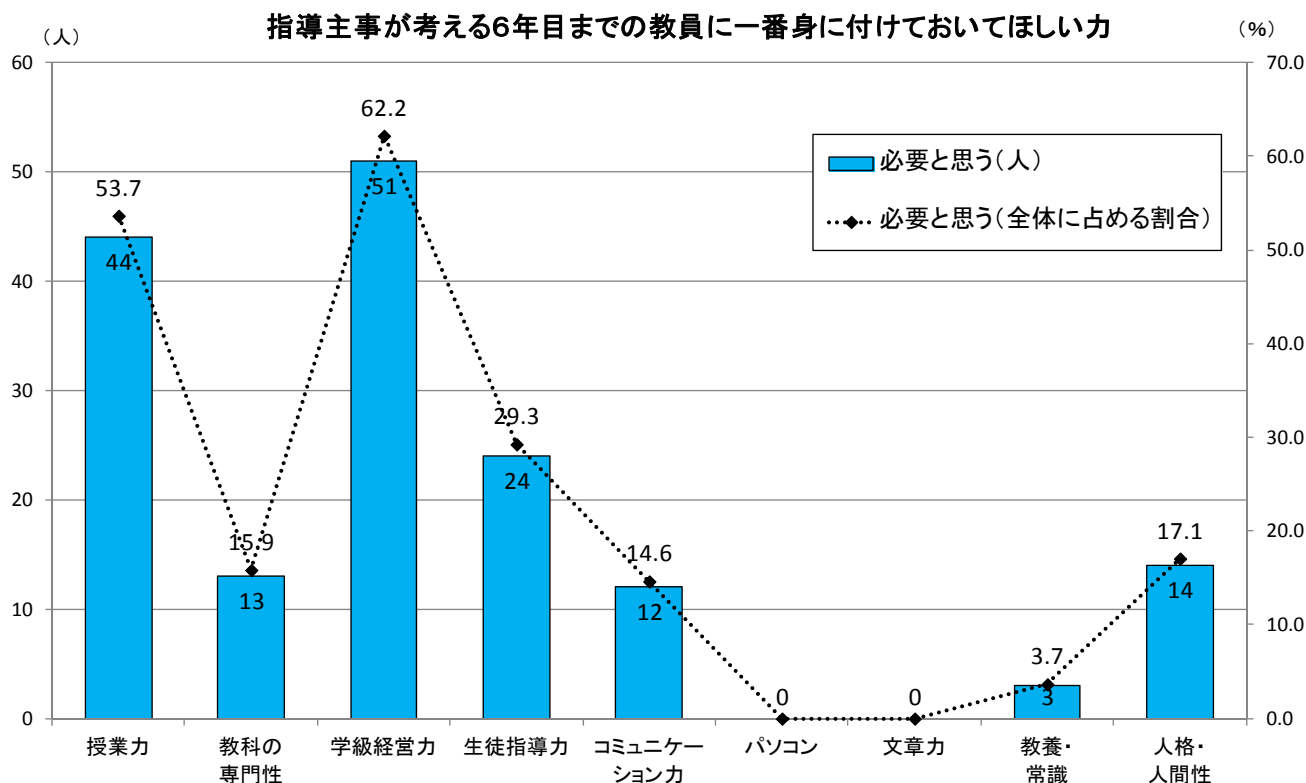
## 吸収できる人間性こそ大事

指導主事が考える大学を出たばかりの教員に一番身に付けておいてほしい力



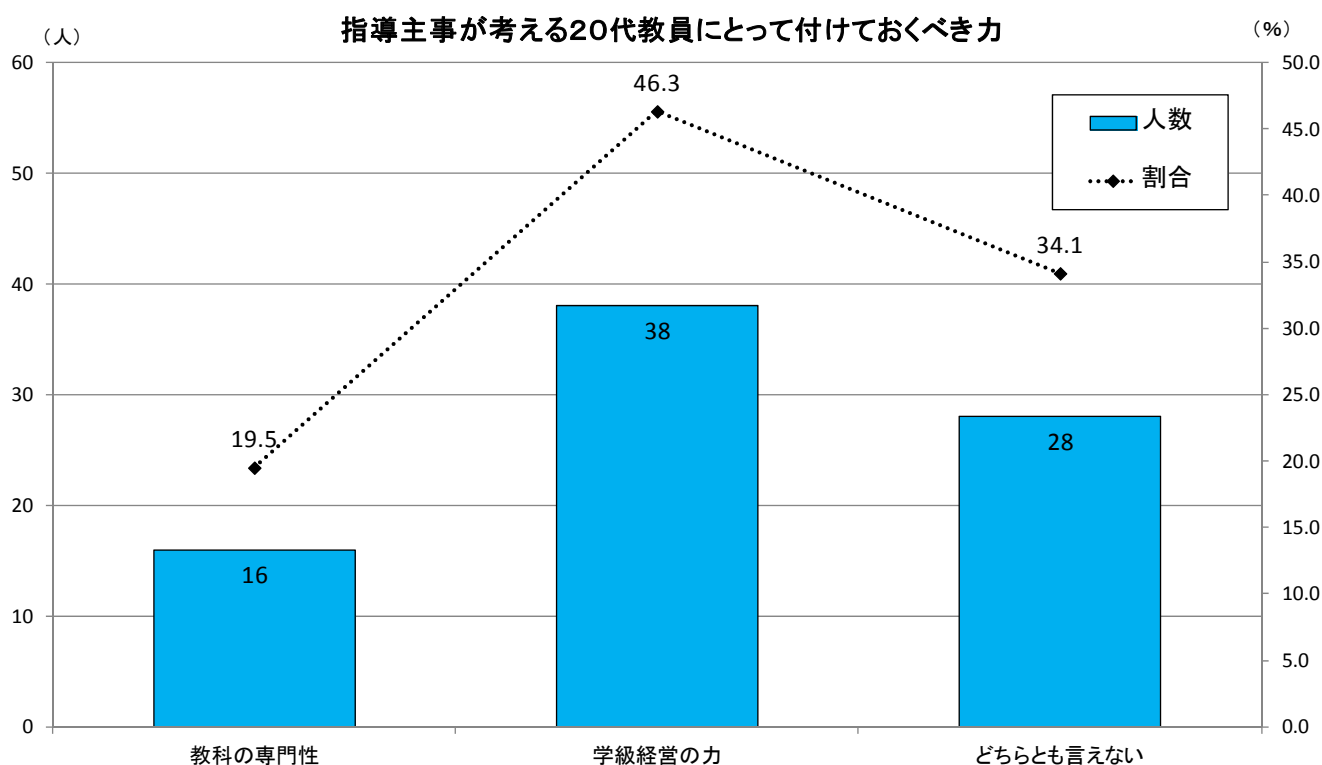
## 指導主事の目から

# 6年間で、学級経営や授業力を身につける

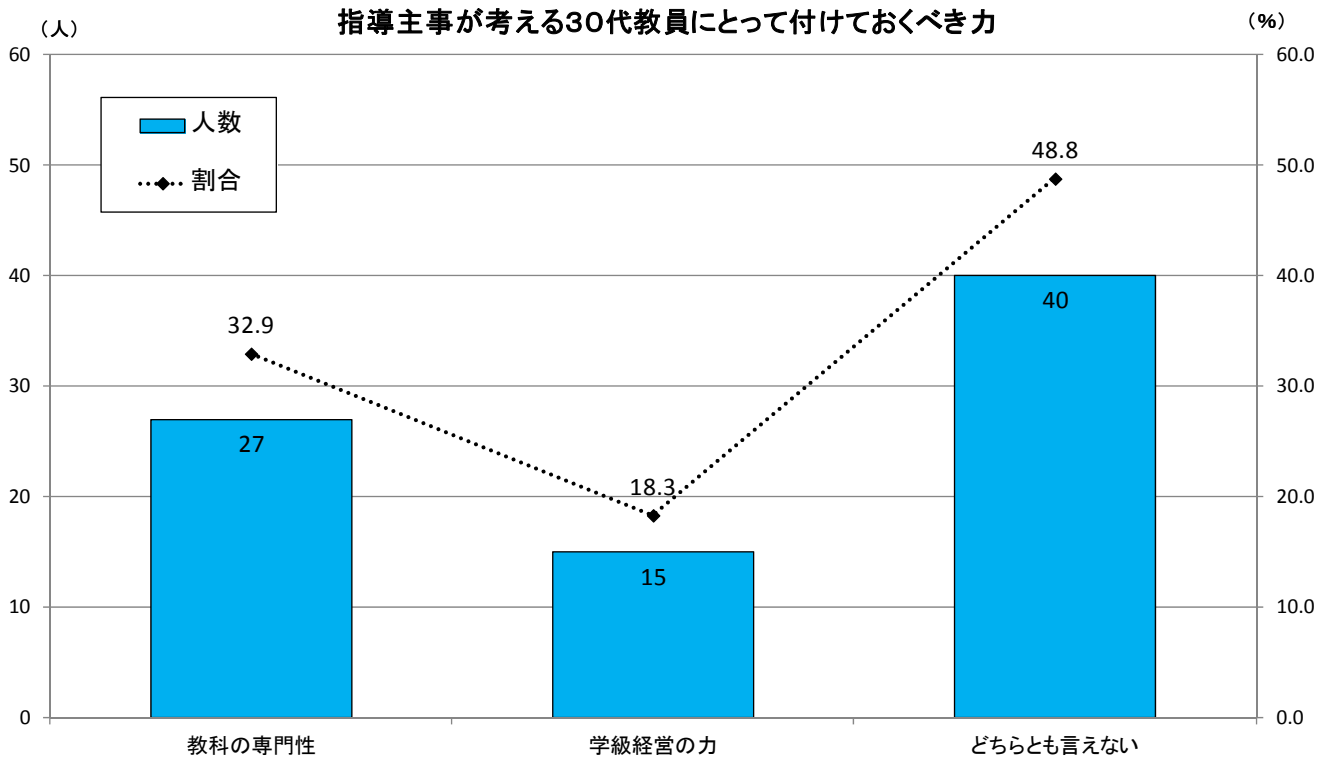


## 指導主事の立場から20代へ

# 20代は、学級経営の力をつける

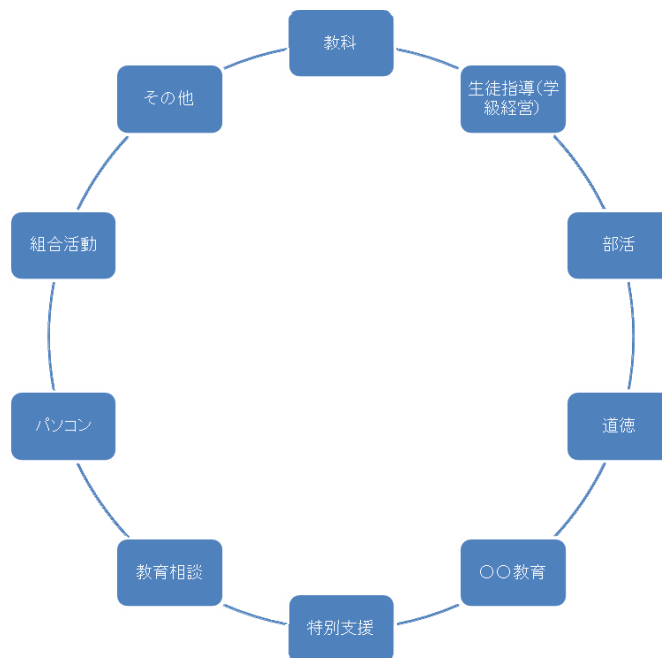


# 30代で、教科の専門性を極める



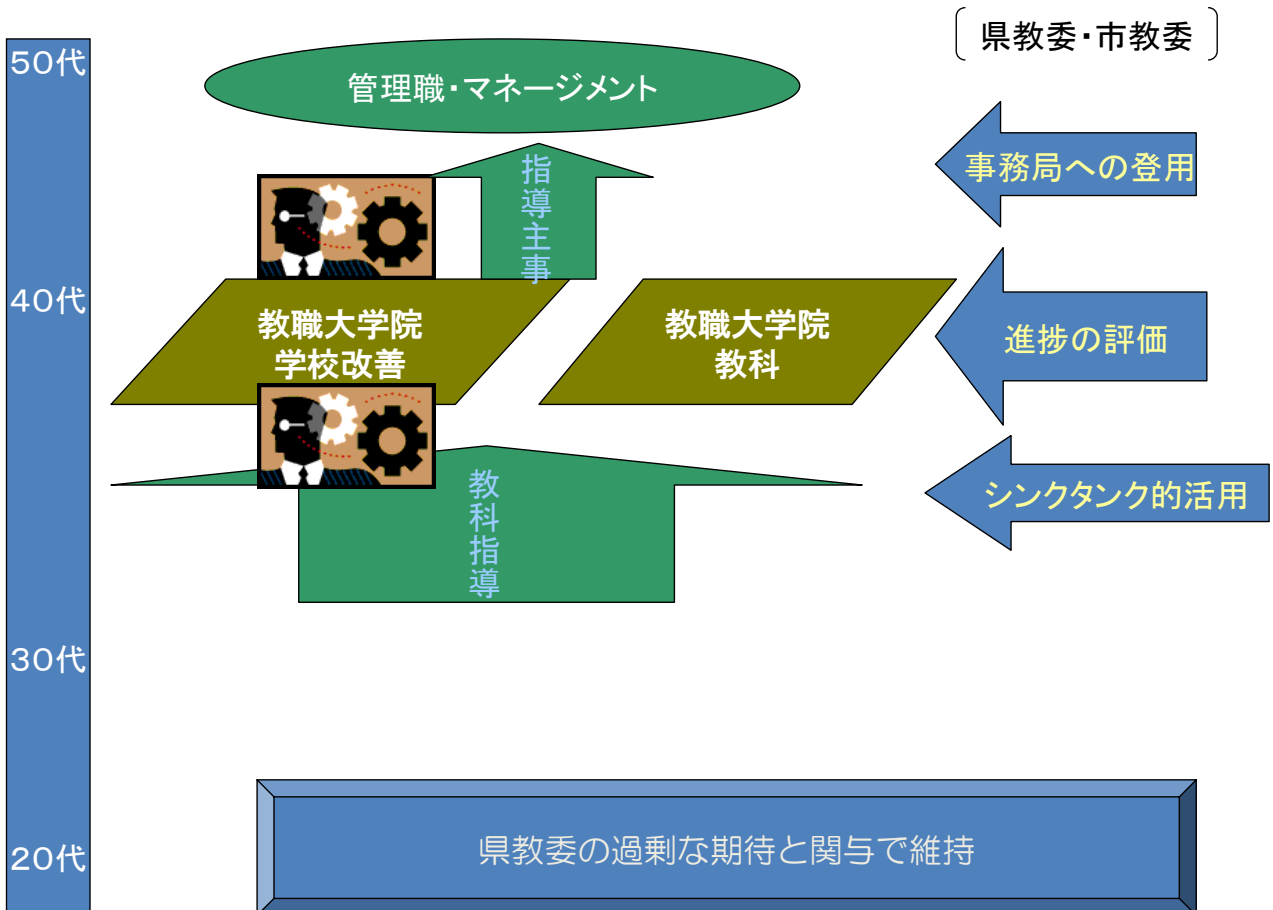
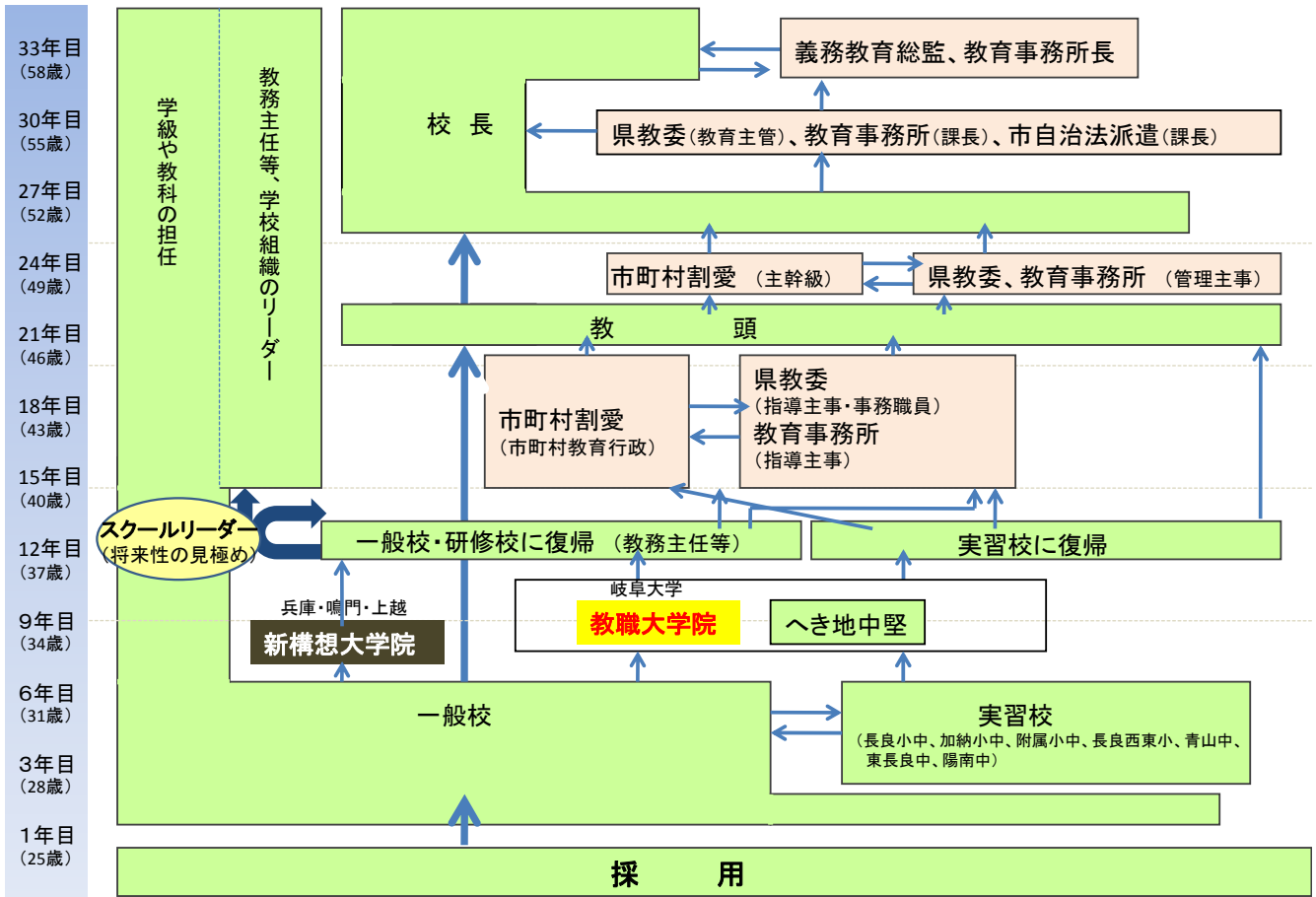
(平成23年度9月に各事務所指導主事、総務課、教職員課、学校支援課、特別支援課、スポーツ健康課、社会文化課、研修課に行われたアンケート結果より)

## 30代で得意分野が明確になる





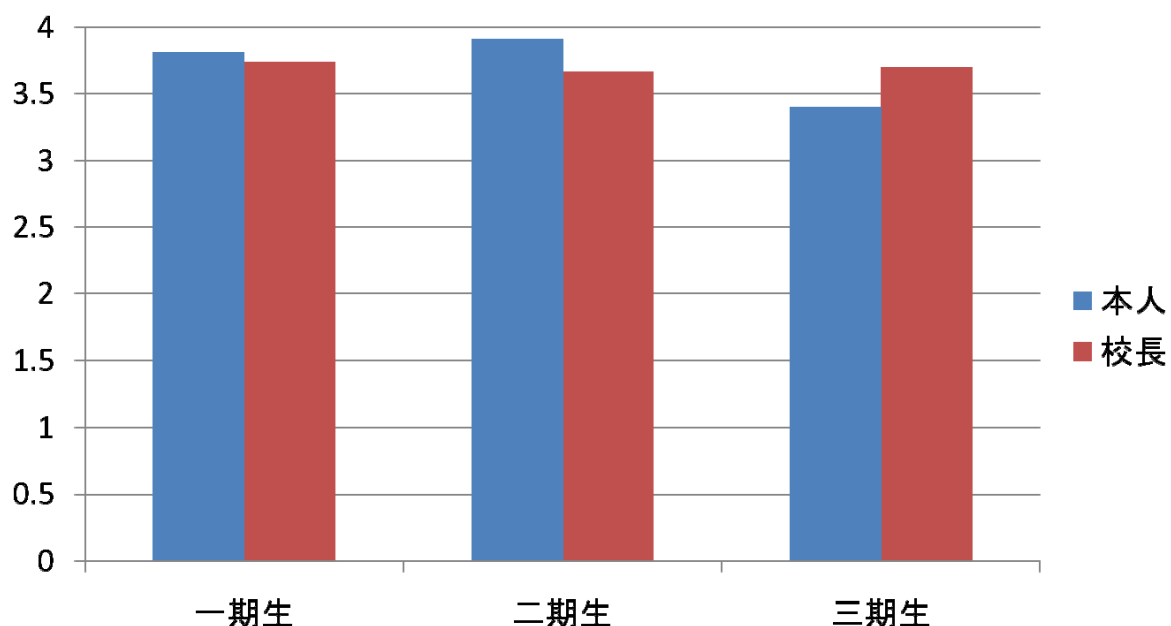
# 教員のライフステージ(小中)



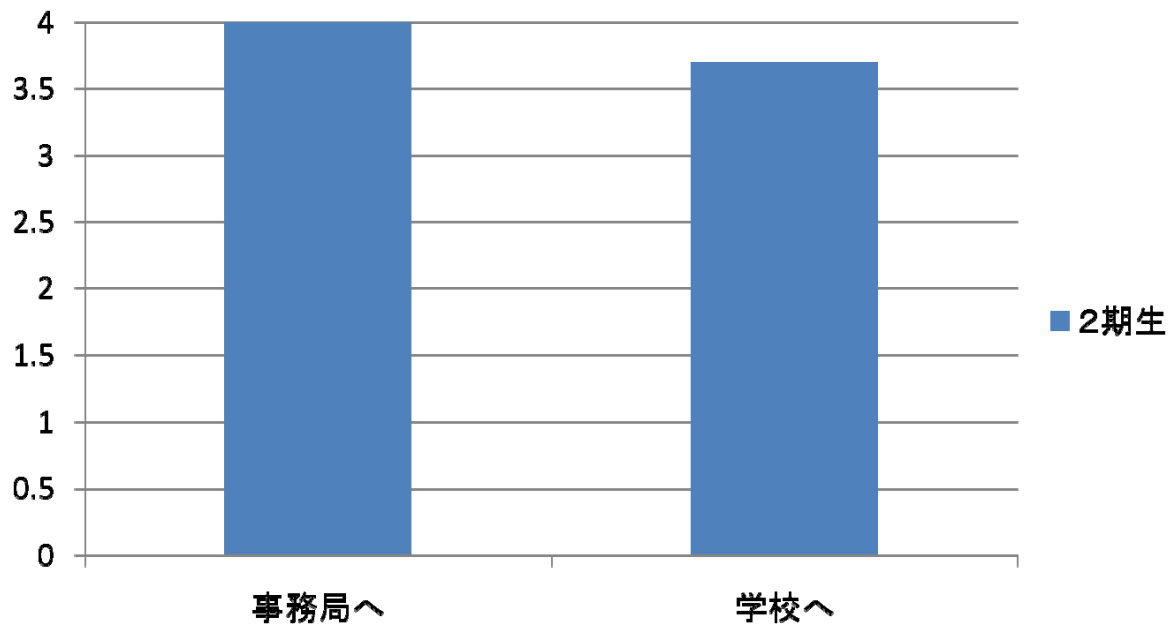
# 教職大学院修了者に関する内容

- 成果を高く評価するも、個人的成果である。
- 研修課題を事前に市町村と打ち合わせした研究ほど、成果の共有がなされる。
- 一般の教諭は教職大学院の研修制度をほとんど理解していない。
- 研修者に多くの配慮をしているが、微妙なズレが研修者のストレスになる。

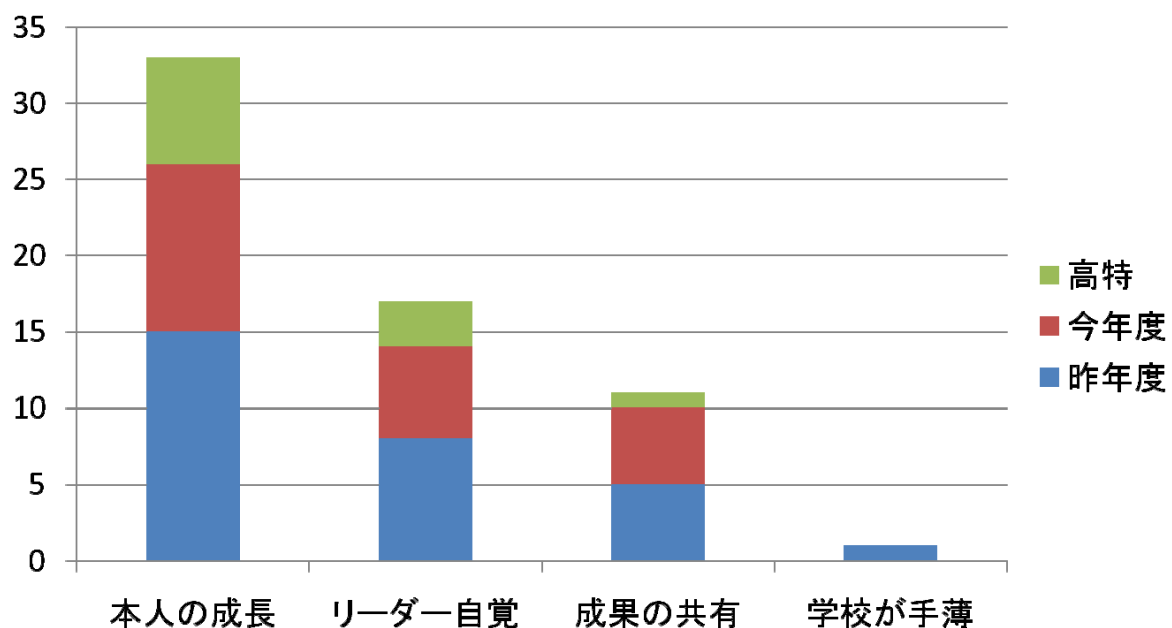
## 教職大学院へ行ってよかったか (小中)



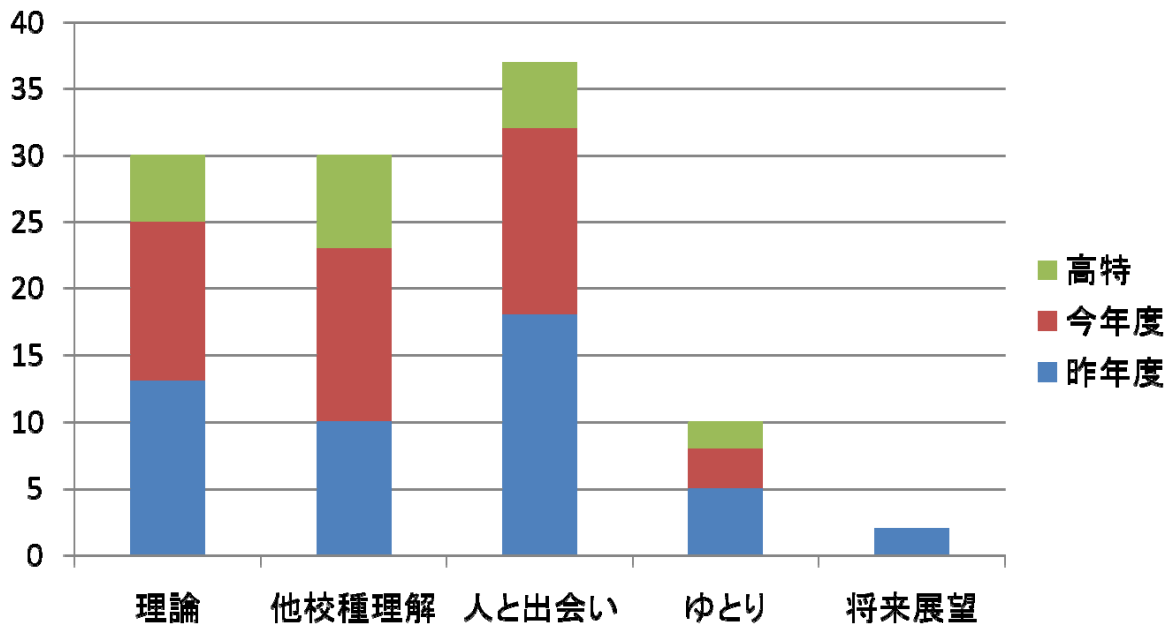
# その後のキャリアとの関係



# 校長の評価（複数回答）

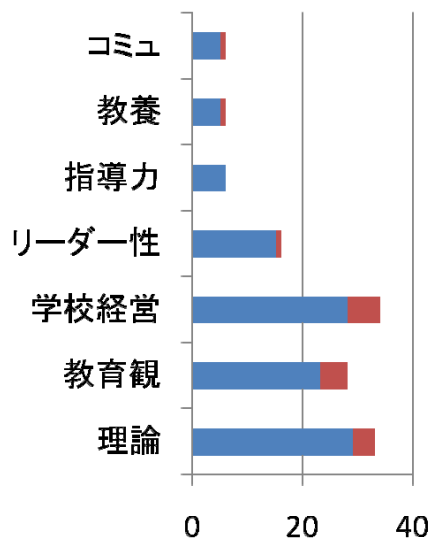


# 研修を受けてよかった点（本人）

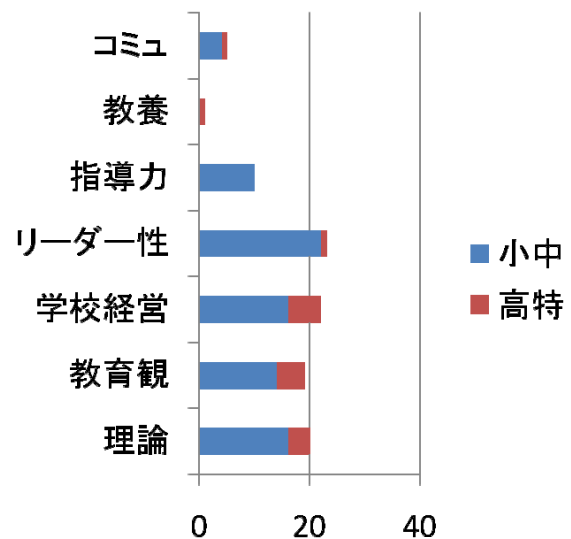


# 研修前と現在の進歩

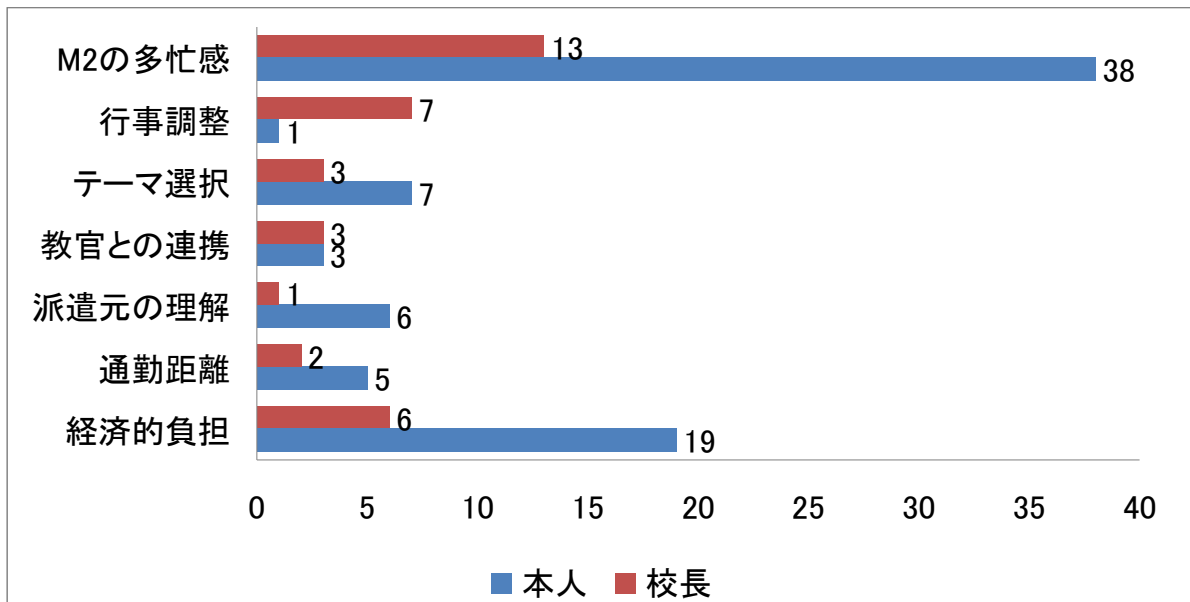
本人の評価



校長の評価

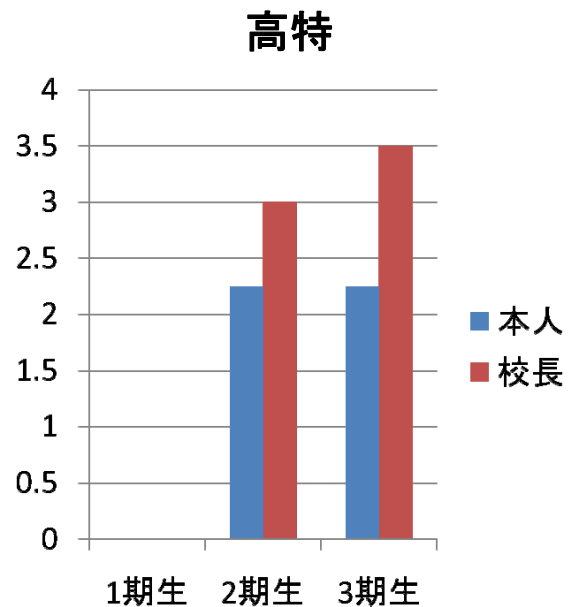
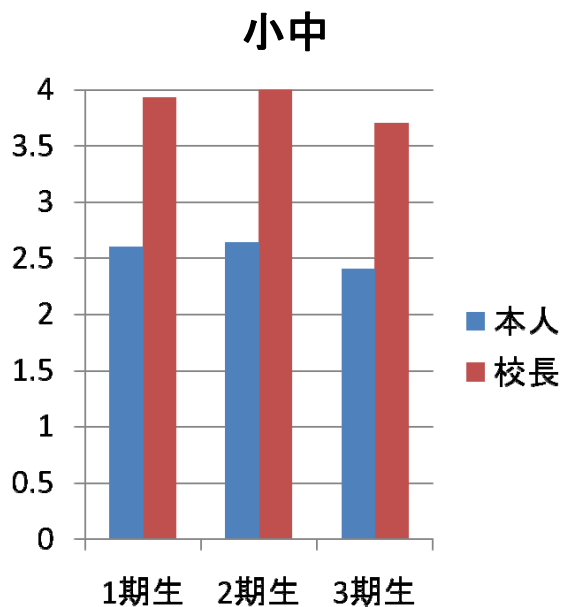


# 何が困難でしたか？

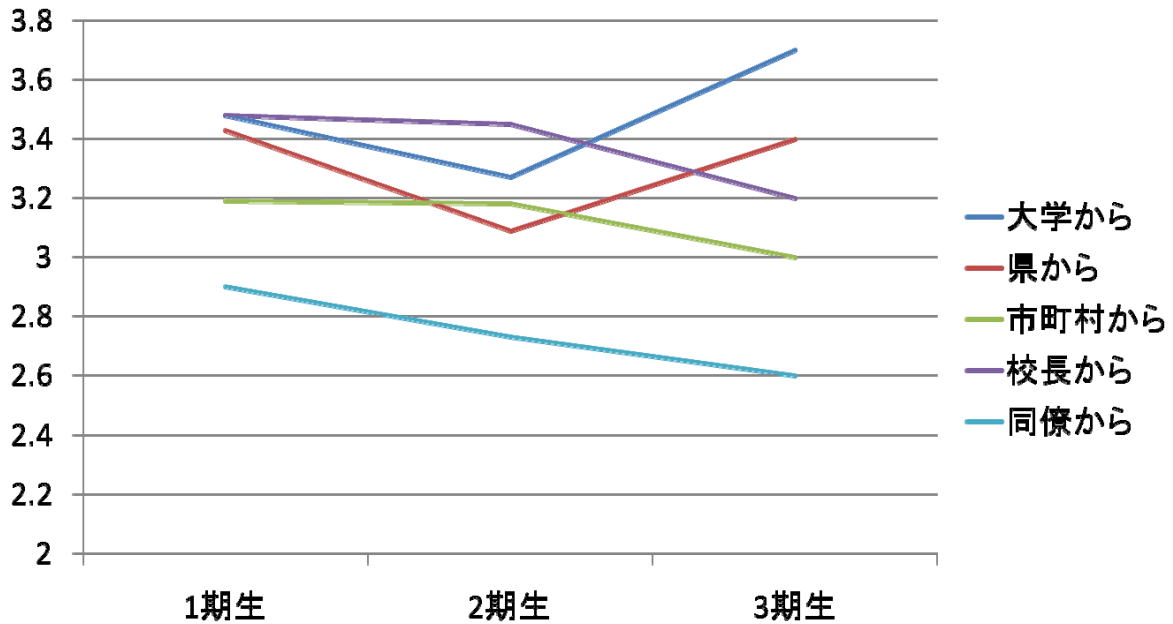


研修等定数の措置が必要

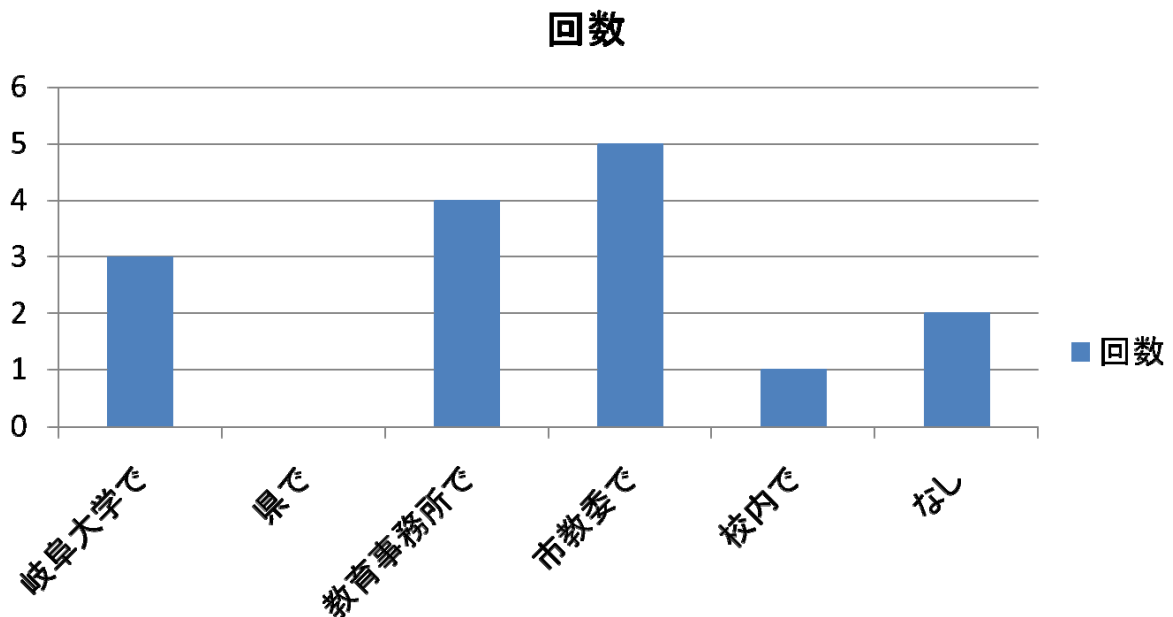
# ミドルリーダーとして活躍は？



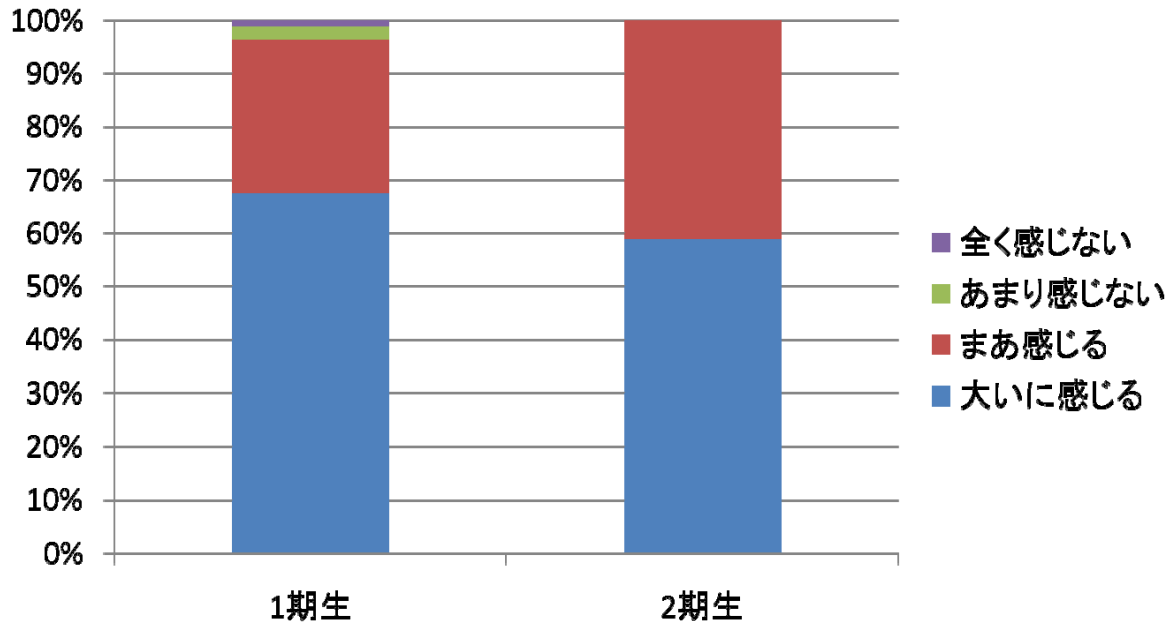
# 周りから感じる期待度は？ (小中)



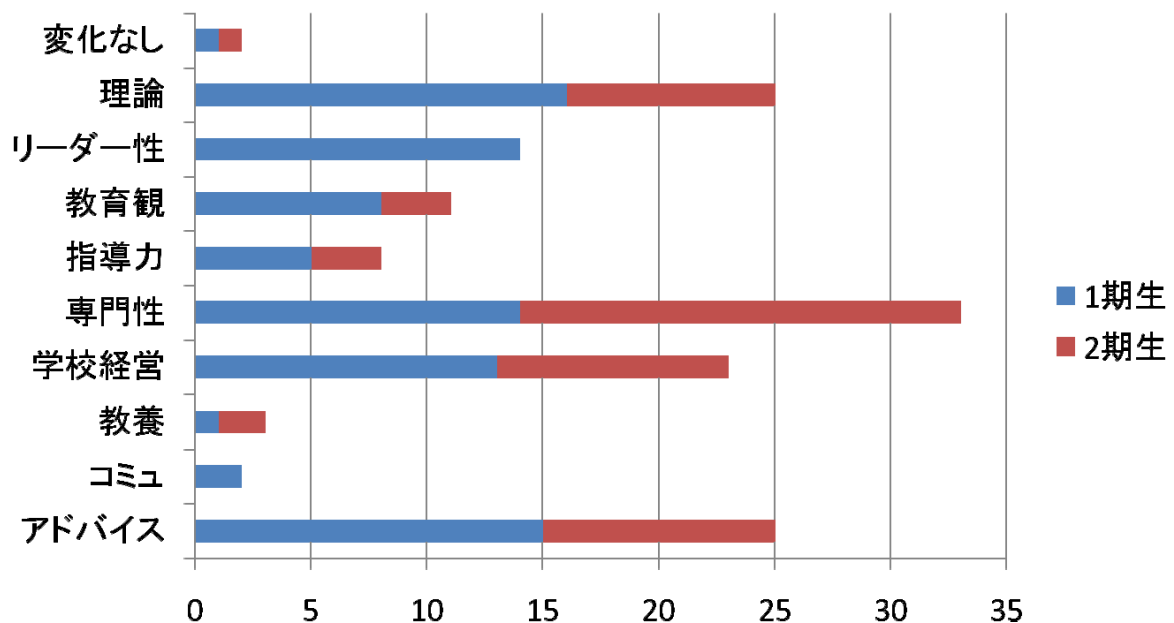
# 講演をしたか？ (2期生)



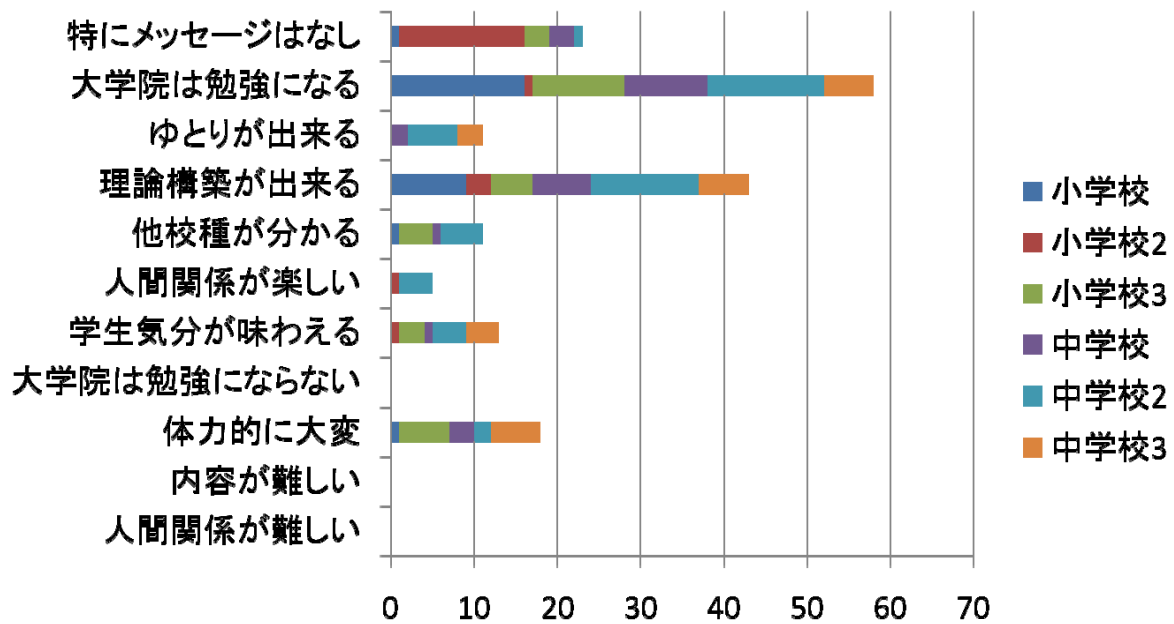
# 同僚評価；仕事に生きているか (小中)



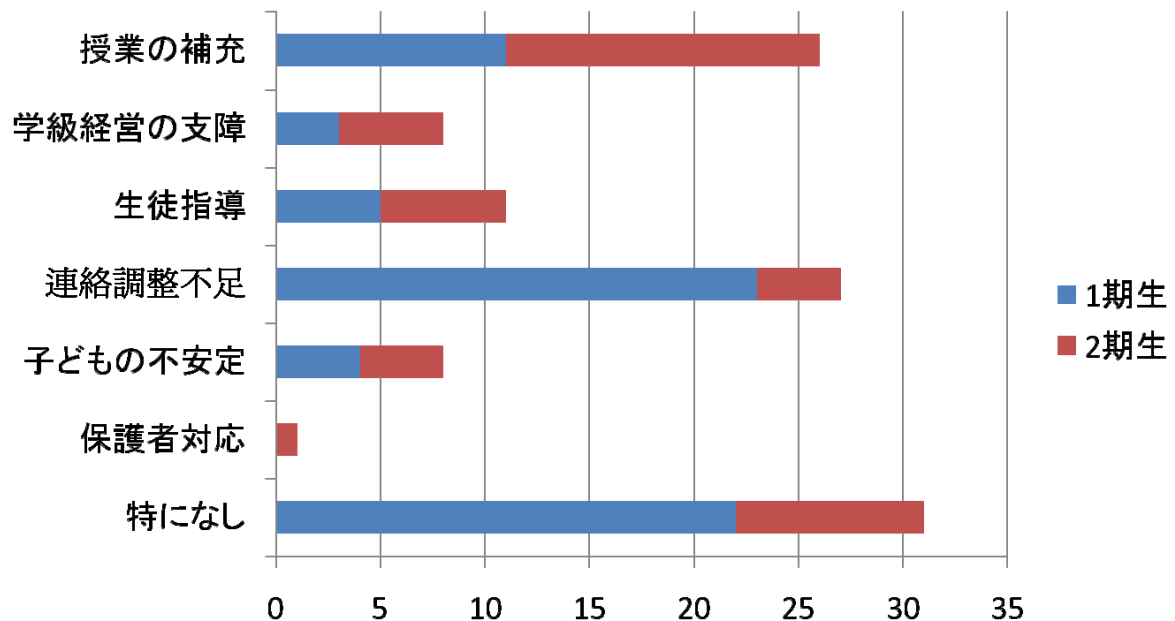
## 同僚から見て、 どんな点で成果を感じるか



# 本人から同僚へのメッセージ



# 当該教諭を送り出して どんな点で支障を感じたか





## ストレートマスターへの対応

- 採用試験の一部免除
- 名簿登載期間の延長
- 初任者研修の一部免除
- 教授陣の心配と現職の感想

## 教職大学院からのヒント

- 現職は課題意識が明確であることが学びの充実につながっている。  
(OJTでは得られない学び)
- 学生は課題意識を持つことが難しい。
- 学生は全体と部分の関係をよみとれない。
- 今学んでいることが、教職のどこに役立つか伝えてほしい。
- 教育実習で得た疑問点や課題を、卒論にしてほしい。